

第23回 ちゅうでん教育振興助成（2023年度）

小・中学校の部 報告書資料

学校名・団体名	札幌市立幌南小学校
コース	学校支援コース
活動・研究のテーマ	子どもが自ら遊び方を工夫し体力向上を目指す教育活動

〈活動・研究の意義および活動報告〉

1. 活動に至るまでの経緯

○本校では健やかな体の育成を目指し、様々な活動に取り組んでいる。その一つに、「E-Park」がある。これは子どもが思わず体を動かしたくなる環境整備の取組であり、この名称には「**E**veryone（みんな）・**E**asy（簡単に）・**E**njoy（楽しめる）Park（遊び場）」という意味を込めている。「E-Park」の取組は令和2年度より着手し、令和5年5月現在、以下の8種類の遊び場が設けられている。

- ① ケンパーコーナー（玄関前）：グラウンドへの行き来や登下校時に気軽にケンパー遊びができる。
- ② バランスストーン（廊下）：形や大きさ等が異なるストーンを常設し、工夫しながら遊べる。
- ③ ジャンバリン（体育館）：ジャンプしてタンバリンを鳴らす遊び。名称は子どもが考案。
- ④ ジャンピングボード（屋上）：二重跳びの練習をはじめ、短なわや長なわをして遊ぶスペース。
- ⑤ スローイングロープ（屋上）：ロープに通された金属ボタンを投げ、奥まで到達すると音がする。
- ⑥ 一輪車（屋上）：フェンスにつかまりながら、苦手や子や初めての子でも遊べる。
- ⑦ バasketゴール（グラウンド）：高さの異なるゴールを2つ設置。柔らかいボールで安全に遊べる。
- ⑧ サッカーゴール（グラウンド）：ボールを蹴る遊びに親しむ子が増えることを期待。



○一方、令和3年度に実施した「体力・運動能力、運動習慣等調査結果」の質問紙結果からは、以下のような課題が明らかとなっている。

＜質問紙の結果より＞

- ・運動やスポーツを「好き」と感じている子は、男女ともに90%以上で、全国・札幌市より高い。
- ・「好き」の理由として、男女ともに「友達や仲間と一緒に活動できるから」という理由を選ぶ子が一番多かった。
- ・「体育の授業以外で、運動やスポーツをどのくらいの時間しているか」という質問において、全体的に男女とも全国・札幌市を下回っている。その差は特に休日で顕著である。
- ・平日に体を動かす時間は、男子で45分～60分、女子は30分～40分であった。全国・札幌市と比べると少ないと言える。

＜考察＞

体育の授業をはじめ、運動やスポーツに対しほとんどの子どもが肯定的な感情をもっている一方、習い事の多様化や公園など運動をして遊ぶ場所が少ないといった地域的要因が総運動時間の少なさにつながっていると考えられる。多くの時間を過ごす学校生活において、体を動かす時間をいかに増やしていくかが課題である。また、友達や仲間と一緒に活動することに価値を感じている子どもが多いことから、休み時間の遊び方の工夫によって運動時間を増やすことができるようにする手立てを講じていくことが効果的であると思われる。

2. 活動内容

(1) 対象者：全校児童（586名）

(2) ねらい：

本校では今年度「子ども主語」を合言葉とし教育活動を推進している。それは、子どもが自分で考えたり、工夫してついたり、決めたりする場面を日々の授業をはじめ、学校行事や児童活動、生徒指導など様々な教育活動に位置付けていく営みである。この観点から前述した E-park 環境や本校児童の課題と子どもが日常遊んでいる様子を見つめ直したとき、子どもが選んで遊ぶことのできる環境はあるものの、子どもが自ら遊び方を工夫する姿があまり見られないということが改善点として見えてきた。そこで、子どもが E-park にあるものに自ら働きかけたり、遊び方を工夫したりしたくなるような取組を児童委員会の活動と連携して行うことにより、「子ども主語」の教育活動をより発展させていくとともに、子どもの運動時間の増加へつなげていくことをねらう。

(3) 活動の様子

【11月】

- ① 体育館に「肋木クライミングウォール」を設置し、子どもが自由に遊び方を工夫して遊ぶことができるようにした。新たな遊具の登場に何度も登り降りして遊ぶ様子が見られた。そのうち、クライミングウォールの両端の肋木に渡って降りてみたり、上でくると向きを変えて横に渡ってみたり、同じ色のホールドだけで登るルートを考え難易度を競い合ったりするなど、様々な遊び方を考え挑戦する姿が見られた。



- ② 廊下に「ビルドインバランス」を設置し、肋木クライミングウォールと同様、子どもが自由に遊べるようにした。ぐらぐらするロープや高さの異なるパーツとバランスストーンとの組み合わせを変えて難易度を高くしたり、コースの長さを変えてみたりしながら遊ぶ様子が見られた。複数の学年が混ざりながら様々な遊び方を編み出し、連日大賑わいのコーナーとなっている。



【12月】

- ① 児童委員会の企画として「こんな遊び方でもっと Enjoy！ E-park」を実施。2つの遊び場での「おもしろい遊び方」とそのネーミングを募集した。「でこぼこピンクミッション」「ぐらぐらアスレチック」「天井タッチ」など、様々な遊び方の工夫が集まり、難易度を分けてお昼の放送で全校に周知した。
- ② 上記の遊び場の様子を学校HPや学校だよりで全校や家庭、地域へ発信。

(4) 子どもたちへの効果（成果・課題）

初めは新たな遊具に出会い、その遊具を楽しむ様子が主であったが、次第に遊具を使った遊びを自ら考え工夫し、様々な遊びを楽しむ様子へ変化していった。子どもが変化を加えることのできるものを新たに設置したり、児童委員会の活動を通して全校に広めたりすることで、子どもが自ら遊具に働きかけ、遊びを創り出す姿につながっている。次年度は子どもの意識の変化を検証するとともに、既存の E-park での遊びも一層充実させていくことができるよう、取組を続けていきたい。

札幌市立幌南小学校 学校だより

幌南

令和5年12月25日発行 NO.10

2学期終業式等

心が動き「愉しさ」が溢れる学校へ

主幹教諭 中村 珠世

本校は『E-Park』という、子どもが思わず体を動かしたくなる環境整備に取り組んでいます。以上のスローイングロープなど、休み時間になると多くの子どもたちが遊びながら体を動かしています。その『E-Park』に、新学期、新たな遊具も二つ登場しました。

一つは、体育館の「肋木クライミングウォール」です。一面だけなので、遊ぶにはやや物足りないかもしれないと思いつつも、子どもたちが楽しそうに登り降りして遊ぶ様子を見ました。そのうち、両端の肋木に渡って降りてみたり、右の扉裏のようにくると向きを変えて横に渡ったり、同じ色のホールドだけで登るルートを考え難易度を競い合ったりするなど、色々な遊び方を考え挑戦する姿が見られました。

もう一つは、職員室前の廊下に設置された「ビルドインバランス」です。ぐらぐらするロープや高さの異なるパーツを組み合わせて使います。この遊具でも子どもたちはすでに遊び方を工夫し始めました。より難易度を高くするようにパーツの組み合わせを変えてみたり、以前、PTAから寄贈されたバランスストーンと合わせて長いコースをつくったり、複数の学年が混ざりながら色々な遊び方を編み出し、連日大賑わいのコーナーとなっています。

このような様子を見ていると、子どもたちの「たのしい」が変化していることに気がきます。初めは新しい遊具に出会い、その遊具を「楽しむ」ことから、次第に遊具を使った遊びを自ら考え工夫し、様々な遊びを楽しむ様子へ変化していった。子どもが変化を加えることのできるものを新たに設置したり、児童委員会の活動を通して全校に広めたりすることで、子どもが自ら遊具に働きかけ、遊びを創り出す姿につながっている。

本校は「子ども主語」を合言葉に掲げ、子ども主体的に取り組む姿を大切にしています。そのためには、上記のような遊び場を整えていくことが重要だと考えます。

本日2学期が終了いたしました。日本の教育活動や多くの学校行事へあなたもご協力をお願いいたします。感謝申し上げます。また、幌南フェスティバルをはじめとした様々なPTA活動のおかげで、子どもたちの笑顔がたくさんございました。3学期も、これからも、幌南小学校は保護者の皆様、地域の皆様と手を携えながら、子どもたちの心動かし、共に響き合う学校で存続していきたいと思います。今後ともお力添えのほどよろしくお願い申し上げます。